

次世代を担うアーティスト・デザイナーを発掘

「Tokyo Midtown Award 2013」 結果発表

受賞作品は東京ミッドタウン プラザ B1F オープンスペースにて展示

10 月 18 日(金)～11 月 10 日(日)

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街”をコンセプトに街づくりを進めています。その活動の一環として開催中の「Tokyo Midtown Award 2013」において、この度、計 1,626 点の応募作品の中から、グランプリ 2 作品を含む受賞作品 14 作品が決定しました。

＜Tokyo Midtown Award 2013 グランプリ受賞作品＞

＜アートコンペ＞テーマ:都市

作品名 : 『単眼的風景:Gruppo del Laocoonte』
(たんがんできふうけい:ぐるっぽ である おこんで)
受賞者 : 鈴木 一太郎 (すずき いちたろう)



＜デザインコンペ＞テーマ:まん中

作品名 : 『MID DAY』(みっど 데이)
受賞者 : bivouac (びばく)



今年で 6 回目となる本アワードは、＜アートコンペ＞＜デザインコンペ＞の 2 部門で実施。2 部門総計 1,626 点の応募作品の中から、＜アートコンペ＞ではギリシア神話のトロイアの神官ラオコーンをモニュメントにした彫刻作品『単眼的風景:Gruppo del Laocoonte』(たんがんできふうけい:ぐるっぽ である おこんで)、＜デザインコンペ＞では 1 年 365 日のちょうど「まん中の日」である 7 月 2 日を「お祝いの日」にデザインした『MID DAY』(みっど 데이)がグランプリに選出されました(受賞作品の詳細は次頁以降をご参照ください。)

尚、受賞作品 14 点は、10 月 18 日(金)から 11 月 10 日(日)までの約 1 ヶ月、東京ミッドタウンのプラザ B1F オープンスペースにて展示します。また、11 月 4 日(月・振休)まで、来街者の一般投票で人気作品を選出する「オーディエンス賞」も実施。結果は 11 月 8 日(金)に東京ミッドタウン・オフィシャルサイトにて発表いたします。なお、東京ミッドタウンでは 10 月 18 日(金)から 11 月 4 日(月・振休)まで、秋のデザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2013」を開催しておりますので、併せてお楽しみください。

■掲載時の一般の方のお問い合わせ先■ 東京ミッドタウン・コールセンター TEL : 03-3475-3100

■東京ミッドタウンホームページ■ <http://www.tokyo-midtown.com/jp>

＜アートコンペ＞ テーマ：「都市」

アートコンペの今年のテーマは、昨年に引き続き「都市」。多くの人々が様々な目的で行きかう、東京ミッドタウンを代表するパブリックスペースの1つ、プラザ B1F を展示場所として、「都市」をテーマにアート作品を募集し、昨年を上回る 293 点の応募がありました。応募作品は、インスタレーションや立体、絵画、ニューメディア等幅広い分野にわたりました。特に平面作品の応募が昨年より倍増しました。これは昨年平面作品が 2 点入選したためと考えられます。その応募作品から 6 点の入選作品を選出。入選者には制作補助金 100 万円を支給し、10 月 8 日(火)の最終審査を経て、各賞が決定しました。さらに、グランプリ受賞者は、University of Hawaii at Manoa / Department of Art and Art History(※1)が実施するアートプログラムへ招聘されます。

＜グランプリ＞

作品名：『単眼的風景：Gruppo del Laocoonte』（たんがんできふうけい：ぐるっぽ での らおこんで）

受賞者：鈴木 一太郎（すずき いちたろう）

＜作家コメント＞

私には古代トロイアの神話と現代日本の都市が重なって見える。真実が何か分からないこと。便利さ・恐怖心から真実を知ろうとしないこと。空気を読んで発言をしないこと。

私たちは、この神話から学ぶことがある。ラオコーンをそのためのモニュメントとしたい。しかし、そこに表れているのは現代の目線によって捉えられた体感がない空虚な彫刻であるという皮肉を、私を含めた現代人へのメッセージとする。



【＜アートコンペ＞概要】

テ — マ：「都市」

応募期間：2013年5月16日(木)～2013年6月6日(木)

審査方法：1次審査(書類審査)→2次審査(模型によるプレゼンテーション)→最終審査

審査員：児島やよい(フリーランス・キュレーター／ライター)

清水敏男(東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授)

土屋公雄(彫刻家／愛知県立芸術大学大学院教授)

中山ダイスケ(アーティスト／東北芸術工科大学教授)

八谷和彦(メディア・アーティスト／東京藝術大学准教授)

協力：TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE

後援：University of Hawaii at Manoa / Department of Art and Art History(※1)

賞(賞金)：グランプリ(1点) ————— ¥1,000,000

準グランプリ(1点) ————— ¥500,000

優秀賞(4点) ————— ¥100,000

※別途入選者1人、または1組につき、制作補助金100万円を支給

※1 University of Hawaii at Manoa / Department of Art and Art History について

＜アートコンペ＞グランプリ受賞者は、University of Hawaii at Manoa の Department of Art and Art History が主催する「Visiting Artist and Lecture Program」に招聘され、実際ハワイに滞在し、公開講座などのアートプログラムを実施します。歴史ある本プログラムへは、これまで数多くのアーティストや学者が招かれ、ハワイの芸術文化に触れながら、各種の公開アートプログラムを行っています。

グランプリ作品詳細及び準グランプリ、優秀賞、審査員特別賞の作品については、添付参考資料をご参照ください。

<デザインコンペ> テーマ:「まん中」

今年の<デザインコンペ>のテーマは、「まん中」。人が出会い、文化が会う都心の「まん中」。才能が交差して、新しい価値が生まれる。そんな「まん中」にふさわしいデザインを募集し、昨年を2割以上上回る1,333点の応募がありました。傾向としては、日の丸やおにぎりをモチーフにした提案、週のまん中「水曜日」が特徴的なカレンダー、料理等を等分することに着眼した作品が数多く見られました。

“デザイン力”、“提案(プレゼンテーション)力”、“テーマの理解力”、“消費者ニーズの理解力”、“商品化の可能性”を基準に応募シート(プレゼンテーションシート)を審査後、意匠権調査を経て、グランプリ・準グランプリ・優秀賞(各1点)、審査員特別賞(5点)の計8作品が決定しました。グランプリ受賞者は、アジア最大の総合デザインイベント「Business of Design Week(BODW)」(※1)に招待されます。また受賞作品には、今後継続的に商品化等のサポートを行っていく予定です。

<グランプリ>

作品名:『MID DAY』(みっど でい)

受賞者: bivouac (びばーく)

<作品コンセプト>

7月2日は元旦から182日、大晦日まで182日、1年365日のちょうど「まん中の日」です。大晦日や元旦と違って、決して祝われることはないその7月2日を、MID DAYとして祝ってみてはどうでしょう。それまでの半年を振りかえり、これからの半年を想う1日になることを願って。



【<デザインコンペ>概要】

テ — マ : 「まん中」

応募期間 : 2013年7月1日(月)~2013年7月29日(月)

審査方法 : 書類審査

審査員 : 小山薫堂(放送作家/東北芸術工科大学教授)

佐藤 卓(グラフィックデザイナー)

柴田文江(プロダクトデザイナー)

原 研哉(グラフィックデザイナー/武蔵野美術大学教授)

水野 学(アートディレクター)

協 力 : 東京ミッドタウン・デザインハブ/アジアデザイン賞(Design for Asia Award)(※2)

賞(賞金) : グランプリ(1点) _____ ¥1,000,000

準グランプリ(1点) _____ ¥500,000

優秀賞(1点) _____ ¥300,000

審査員特別賞(5点) _____ ¥50,000

※受賞後、商品化のサポートを提供

※1 Business of Design Week(BODW)について

<デザインコンペ>グランプリ受賞者を、香港で開催される「Business of Design Week 2013」に招待します。香港デザインセンターが主催するアジア最大のデザイン総合イベントで、現在の社会やビジネスにおいてデザインが重要になるという考えに基づき、革新的で優れたデザインを振興するとともに、デザイナー達に活力を与える場を提供しています。アジア市場でデザインによって商業的成功をおさめた企業に対して授与される「アジアデザイン賞(DFAA)」も選定します。

※2 <デザインコンペ>協力機関:アジアデザイン賞(Design for Asia Award)について

香港デザインセンターが主催するアジアデザイン賞(DFAA: Design for Asia Award)は、レッドドットデザイン賞、iF デザイン賞やグッドデザイン賞と並び「世界のデザイン賞」と評価され、飛躍的な成長を続ける中国を含むアジア市場にフォーカスしたユニークなデザイン賞です。

グランプリ作品詳細及び準グランプリ、優秀賞、審査員特別賞の作品については、添付参考資料をご参照ください。

東京ミッドタウン・オーディエンス賞

10月18日(金)の授賞式にて発表する<アートコンペ>、<デザインコンペ>の受賞作品は、10月18日(金)～11月10日(日)の間、東京ミッドタウン プラザ B1Fにて展示します。

また、東京ミッドタウンのデザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2013」期間中の11月4日(月・振休)まで、同会場で来街者の一般人気投票を実施し、「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」を決定します。本年は、昨年秋に商品化された<デザインコンペ>2011 グランプリ作品『縁起のいい貯金豚』をモチーフにした投票箱で投票を受け付けます。

投票期間：10月18日(金)～11月4日(月・振休)

投票場所：東京ミッドタウン プラザ B1F 展示スペース



▲2011年度グランプリ 商品化作品 縁起のいい貯金豚
(左 ぎんとん、右 きんとん)



▲『縁起のいい貯金豚』を模した投票箱
(イメージ)

※アートコンペ、デザインコンペの各受賞作品画像は、以下の URL よりダウンロードいただけます。

http://www.tokyo-midtown.com/press/index_press.html

Tokyo Midtown Award 2013 受賞作品

<アートコンペ> テーマ:「都市」

■ グランプリ

作品名: 『単眼的風景: Gruppo del Laocoonte』 (たんがんできふうけい:ぐるっぽ での らおこんて)

受賞者: 鈴木 一太郎 (すずき いちたろう)

略 歴: 愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻領域 在学中



<作家コメント>

私には古代トロイアの神話と現代日本の都市が重なって見える。真実が何か分らないこと。便利さ・恐怖心から真実を知ろうとしないこと。空気を読んで発言をしないこと。

私たちは、この神話から学ぶことがある。ラオコーンをそのためのモニュメントとしたい。しかし、そこに表れているのは現代の目線によって捉えられた体感がない空虚な彫刻であるという皮肉を、私を含めた現代人へのメッセージとする。

■ 準グランプリ

作品名: 『Tokyo Atlas』 (とうきょう あとらす)

受賞者: 山上 渡 (やまかみ わたる)

略 歴: 美術作家



<作家コメント>

私は地図を見つめる。私はその中に道を見つける。すると当たり前だがすべての<道>は繋がっていることに気がつく。そしてふと、それらがまるで私たちの持つ血管のようだと考え始める。

都市は人から人、時代から時代へと連綿と繋がりができあがってきました。道も都市の成長とともに、より高度に、より複雑に増殖してきました。私はこの都市を俯瞰し、<道>という存在に焦点をあてることで、東京という巨大な生命体をあぶり出そうと考えます。

■ 優秀賞

受賞作：『東京ドリーム』（とうきょうどリーむ）
受賞者：赤嶺 智也（あかみね ともや）
略歴：ノーザンブリア大学ファインアート専攻 中退



（作家コメント）

日本の中心、大都市「東京」。そこには、日本中から夢や希望、仕事を求めて色々な人達が集まる。夢を追う人、身動きがとれずにいる人、黙っている人、踊り狂う人、夢を叶えた人。それぞれの人にそれぞれの人生やドラマがある。大都会の大きな人の渦の中、埋もれ、もがき、それでも夢に生きる人々の様子を描く。

■ 優秀賞

受賞作：『クレマアチス』（くれまあちす）
受賞者：スナックその ※アートユニット
・佐藤 元紀（さとう げんき）大阪芸術大学 卒業
・渡辺 優（わたなべ ゆう）多摩美術大学 卒業



（作家コメント）

都市で生きる人々は個人主義でありながらも強い協調性を合わせ持っている。都市を生きやすい環境にする為に自らも演者として参加する傍ら、自分だけは消費されるのではなく活用したいという意識を持っている。都市の外縁になることに恐怖を覚え、実体の無い中心へ潜ろうと必死になっている。この代謝とは逆の活動が都市に熱を生じさせ、都市を生かしているのである。

■ 優秀賞

受賞作：『TRANSFORM』（とらんすふおーむ）
受賞者：中里 洋介（なかざと ようすけ）
略歴：東京藝術大学大学院美術研究科
先端芸術表現専攻 在学中



（作家コメント）

都市のゴミの表面を空間に描き出した。そのシルエットはまるで、アメーバの様な形を持たない生き物に見える。そしてその生き物は「都市」そのものと重なってゆく。

■ 優秀賞

受賞作：『Corvus』（こるうす）
受賞者：渡辺 元佳（わたなべ もとか）
略歴：武蔵野美術大学造形学部彫刻学科 卒業



（作家コメント）

コルウスは東京ミッドタウンの地下に住んでいるちょっと変わった大きなカラスです。展示期間中は昼と夜、2つの違った表情を楽しんでいただけます。

<アートコンペ> 審査員総評



■ 児島 やよい／Yayoi KOJIMA

(フリーランス・キュレーター／ライター／慶応義塾大学、明治学院大学非常勤講師)

アートは正解／不正解、勝ち負けとは違った価値観が生きる世界だと思います。その中で、受賞作品を選ぶというのはとても難しい。今回、改めて痛感しました。最終選考に残った6組は、生真面目に、制作・展示に取り組んでくれましたが、正直なところ、もっと予想を上回るトンデモナイ力を発揮してほしいと思います。もっと主張して、突っ走って、衝突することも、力になっていくはず。そのポテンシャルを持っている6組です。この経験をバネに活躍してくれることと期待しています。



Photo by Herbie Yamaguchi

■ 清水 敏男／Toshio SHIMIZU

(東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授)

回数を重ねるたびに面白い作品案が増えて来たので選考に苦労した。このアワードの面白さは作品案で審査し、その後制作する、というところにありその課程でどれだけ作品を深化できるか、というところにある。またパブリックスペースに展示する事が前提なので見せ方もマスターしなくてはならない。今回期待以上の作品を実現した作家もいればそうでない作家もいた。最後まで到達した作家は自分の持ち味を理解しさらに発展させてほしい。



■ 土屋 公雄／Kimio TSUCHIYA

(彫刻家／愛知県立芸術大学大学院教授／武蔵野美術大学客員教授)

今年で6回目となる東京ミッドタウンアワードだが、すでにこれまでの受賞者の中には様々な展覧会で活躍されている方々があり、今やこの<アートコンペ>は、国内における若手アーティストの登竜門的役割を持つ公募展となっている。今回最終審査に残った6名の皆さんも、いずれは日本の美術界で活躍される方々であろう。6作品それぞれが独自の世界観を持つ力作である。今年もブラザを行きかう多くの人々に、アートの魅力を感じ楽しんでいただけることであろう。



Photo by Miura Haruko

■ 中山 ダイスケ／Daisuke NAKAYAMA

(アーティスト／東北芸術工科大学情報デザイン学科教授)

今年から展示場所が人々の行き交う地下モール内に点在するようになったことで、作品単体の力がさらに求められました。作家の望む距離まで観客を導く事も、作品背景の説明を要する作品も困難な中、アートを期待していない人々とすれ違い様に接続するための力を造形力に込めた中里さんと渡辺さん、スナックそのさん、画力に込めた赤嶺さんが一歩及ばなかったことが残念です。街が潜在的に放つ力は、作家の想像以上だったようです。



Photo by 米倉祐貴

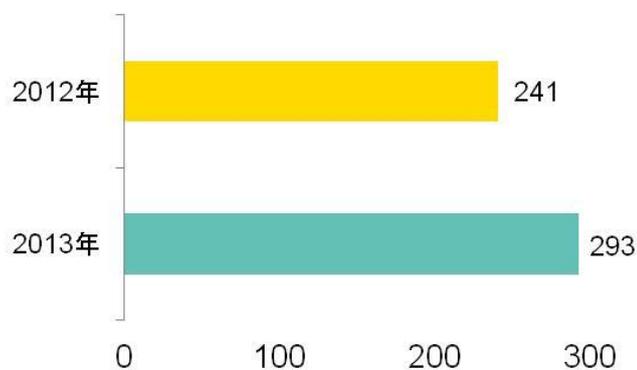
■ 八谷 和彦／Kazuhiko HACHIYA

(メディア・アーティスト／東京藝術大学先端芸術表現科准教授)

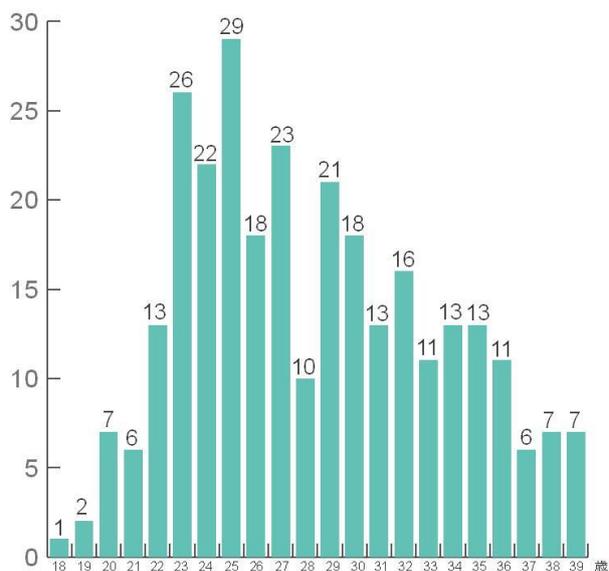
今回二次審査に選んだ人たちは、どの作家もグランプリを狙える実力を持った人たちだと思っていた(る)のだが、結果的には最終作品が想定より良くなった人もいれば、多少残念な結果になった人もいた。これは、ロケーションや実作のサイズなど、様々な要因が作用したのだと思うのだけど、プランどおりに行かないことは、作家をやっているれば必ず経験することなので、これにめげずに今後も実作を作り続けてほしい。そうやってはじめて、素材や作品をコントロール出来るようになってくるので。

<アートコンペ> 応募者データ

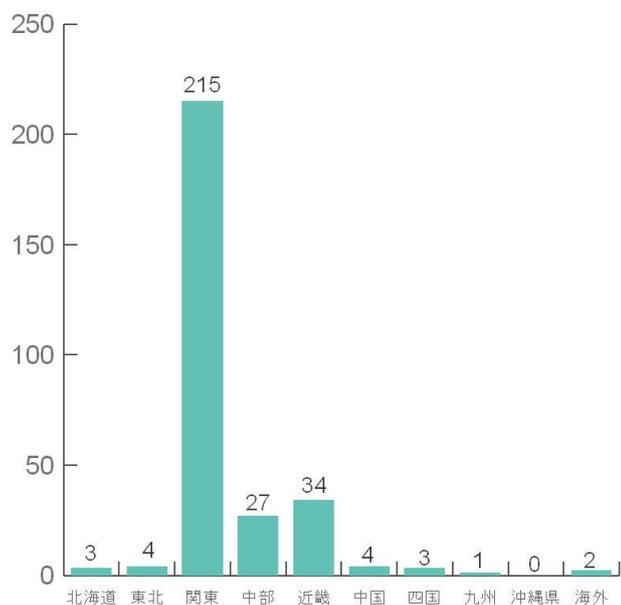
● 応募総数昨年度比 (件)



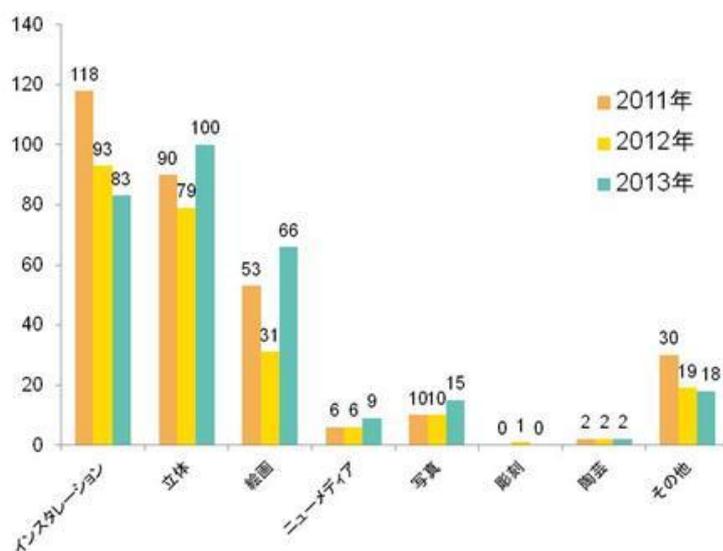
● 年齢分布 (件)



● 地域別応募者数 (件)



● 分野別応募者数 (件)



■ 応募者数…293名(組)

■ 傾向…応募作品は、インスタレーションや立体、絵画、ニューメディア等幅広い分野にわたりました。特に平面作品の応募が昨年より倍増しました。これは昨年平面作品が2点入選したためと考えられます。

■ グランプリ

受賞作 : 『MID DAY』 (みっど でい)

受賞者 : bivouac (びばーく)

略 歴 :

・稲田 尊久 (いなだ たかひさ)

2000年 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業

／native graphic 所属

・姫野 恭央 (ひめの やすひろ)

2002年 拓殖大学工学部工業デザイン学科 卒業

／エイベックス・プランニング&デベロップメント株式会社 所属

・田中 和行 (たなか かずゆき)

2004年 HAL 大阪ビジュアルデザイン学科 卒業

・田島 史絵 (たじま ふみえ)

2007年 Seattle Central Community College Web Design Course 卒業



(作品コンセプト)

7月2日は元旦から182日、大晦日まで182日、1年365日のちょうど「まん中の日」です。大晦日や元旦と違って、決して祝われることはないその7月2日を、MID DAYとして祝ってみてはどうでしょう。それまでの半年を振りかえり、これからの半年を想う1日になることを願って。

■ 準グランプリ

受賞作 : 『ATARI MANJU』 (あたりまんじゅう)

受賞者 : 鈴木 萌乃 (すずき もえの)

略 歴 : 武蔵野美術大学造形学部 在籍

(作品コンセプト)

的のまん中を射ぬく矢は、大当たり(幸運)のシンボルとして用いられます。矢の楊枝でまんじゅうのまん中を射ぬいたら願い事をしてパクリと口に入れる、そんな縁起のいいお菓子です。宝くじと一緒に買って帰るのはどうでしょう？



■ 優秀賞

受賞作 : 『マト良子』 (まとりょうこ)

受賞者 : 吉原 まさひこ (よしはら まさひこ)

略 歴 : 2007年 多摩美術大学生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻 卒業

(作品コンセプト)

私たちは誰かと向き合う時、その人の中心にある「本質＝まん中」を見ているつもりで見えていない。外見、言葉、評判、想い、雰囲気、生き立ち、家族、故郷、歴史、肩書き。様々な先入観にとらわれ、その人の本質を見失う。マト良子は、そんな状況を具現化した変身フィギュアである。目で見ることのできない人間の心の「まん中」を、良子を通して感じることで、今一度、私たちの心の在り方を見つめ直したい。



<審査員特別賞>

■ 小山薫堂賞

受賞作：『切手用はがき』（きってようはがき）

受賞者：福嶋 健吾（ふくしま けんご）

略歴：2012年東京デザイナー学院プロダクトデザイン科
雑貨デザイン専攻 卒業／有限会社 TSDESIGN 所属

（作品コンセプト）

切手を中心に考える、切手用のはがきです。今まで端にいた小さな一枚の切手がこのハガキの中心となる。ハガキを縦や横にする事でほとんどのサイズの切手を貼る事が出来ます。

「この切手にしよう！」楽しみながら切手を選んで頂きたい。



■ 佐藤 卓賞

受賞作：『端のないオセロ』（はしのないおせろ）

受賞者：伊藤 兼太郎（いとう けんたろう）、伊藤 るみえ（いとう るみえ）

略歴：伊藤 兼太郎・2002年金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程 修了／株式会社ポーラ 所属
伊藤 るみえ・2011年東京芸術大学デザイン科 卒業／株式会社ポーラ 所属

（作品コンセプト）

オセロの必勝法は、四隅を奪うことです。そのため、ゲーム中盤からこの攻防戦に終始し、四隅を奪われれば呆気なく勝負がついてしまいます。「端のないオセロ」は、石の形を四角形にすることで 8×8=64 のマス目を取り払い、その必勝法を無効化しました。

これまでのセオリーが通用しなくなったとき、新たな才能が生まれるかもしれません。真ん中真っ向勝負で挑んでください。



■ 柴田文江賞

受賞作：『中心箱』（ちゅうしんばこ）

受賞者：上西 綺香（うえにし あやか）

略歴：和歌山大学システム工学部 在籍

（作品コンセプト）

お弁当箱に「まん中」がある。それだけで自然と人の「まん中」が出来る上がります。盛り付けの工夫の幅が広がり、健康にいい主食と副食のバランスも保ちます。詰めやすく美しい、人と困めるお弁当箱です。



■ 原 研哉賞

受賞作：『梅消し』（うめけし）

受賞者：元谷 文則（もとだに ふみのり）

略歴：2004年大阪大学工学部地球総合工学科 卒業／
株式会社スピード 所属

（作品コンセプト）

不思議とノートのみん中に置きたくなる消しゴムです。その様子はまるで日の丸弁当のように見えます。梅干しでご飯が進むように、梅消しで筆が進むことを願う、ちよっぴりしょっぱいユーモアが込められています。



■ 水野 学賞

受賞作 : 『In the mirror』 (いんざみらー)

受賞者 : 海福 恒太 (かいふく こうた)

略 歴 : 2009 年静岡文化芸術大学デザイン学部生産造形学科 卒業 / 株式会社イトーキ 所属

(作品コンセプト)

日々の暮らしの中に花をそえたいという気持ちがありました。この花瓶の真ん中から半分は鏡の中に存在していて、この花瓶に花を活けると花もまた鏡の中にあらわれます。

日常的に花が手に入らなくても、帰り道に咲いている花を摘んでこの花瓶に活けたら、毎日の暮らしを花やかに彩ってくれます。



<デザインコンペ> 審査員総評



photo by Hiromi Shinada

■ 小山薫堂 / Kundo KOYAMA

(放送作家 / 脚本家)

すぐれたデザインは、「その先」を想像させます。単に美しいだけ、カッコいいだけではなく、それを手にしたり、それに会ったことで、自分の未来がどれだけ豊かになるか・・・そんなことを想像させるデザインこそ、本当に素晴らしいと思うのです。

特に今年の優勝作品は、「もの」ではなく「こと」の提案でした。2008年の第一回目のテーマが「日本の新しいお土産を作る」だったことを考えれば、このコンペティションそのものが成熟していると言えるのかもしれません。



■ 佐藤 卓 / Taku SATOH

(グラフィックデザイナー / 佐藤卓デザイン事務所 代表取締役)

何と言っても、今年のグランプリが物ではなく「コト」に決まったことが画期的です。これまで、販売することがひとつの目的でもあったので、形のある物が受賞することが、審査員側も提案側も共通認識のように考えられてきました。しかしこの「MID DAY」は、物ではなく「コト」なのです。それでもこの真ん中を祝うコトは、サービスや物を販売する場を生む可能性を秘めています。あながち物と関係がないわけではありません。このような提案は、このアワード始まって以来の出来事です。この画期的なアイデアを、東京ミッドタウンでまずぜひ実行に移してほしいと思います。そして世界へ伝播されてもいいのではないのでしょうか。他の賞に輝いた方々の作品は、それぞれ今まで通り「物」のアイデアと完成度で決定されました。これらも大変よく出来ています。今後も東京ミッドタウンアワードらしい作品が出品され、さらに我々審査員をも触発してくれる作品に多く出会えることを期待しています。



photo by: Seiji Tonomura

■ 柴田文江 / Fumie SHIBATA

(プロダクトデザイナー / Design Studio S 代表)

2013 年の Tokyo Midtown Award の審査を終えて、例年よりも表現のレベルが上がっていたという感想を持った。よりわかり易く伝える工夫が文章や図柄に施されているところには好感が持てた。反面こじんまりまとまった作品ばかりで、表層的なアイデアであったり、似たような作品が多かったのは残念だ。そんな中でも、アイデアを思いついてから、その思いつきを自分なりに昇華させるプロセスの中で「ユニークネス!」を見つけられた作品達は上位にくい込んだ。やはりオリジナリティーが見る者の心をとらえるのだ。



■ 原 研哉 / Kenya HARA

(グラフィックデザイナー / 武蔵野美術大学教授 / 日本デザインセンター 代表)

全体として質の高い作品が目立った。東京ミッドタウンアワードの個性が徐々に確立されてきているように思う。単にシャープな着眼や、完成度の高さだけではなく、発想の背景にそこはかかない「幸福感」や「笑い」が含まれている点がこの賞の特色で、おそらくは審査員の顔ぶれや選択眼が、反映されはじめた結果でもあるような気がする。しかつめらしいデザイン賞とは一線を画する、ユニークなアワードとして、育ちはじめた実態があり、たのもしく感じた。

■ 水野 学 / Manabu MIZUNO

(アートディレクター / クリエイティブディレクター / good design company 代表 / 慶應義塾大学特別招聘准教授)

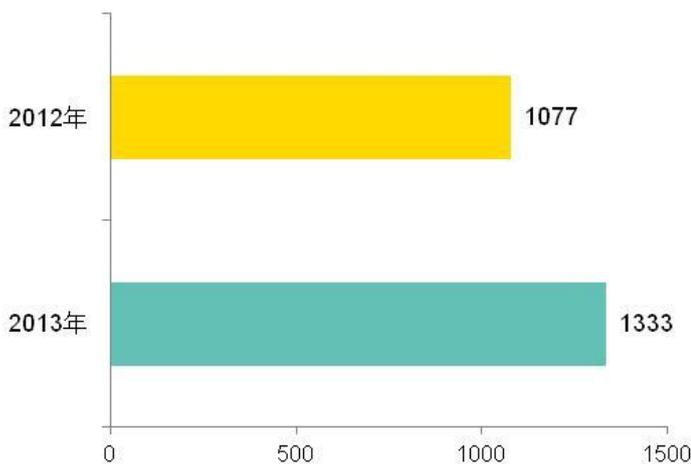


photo by Eiki Mori

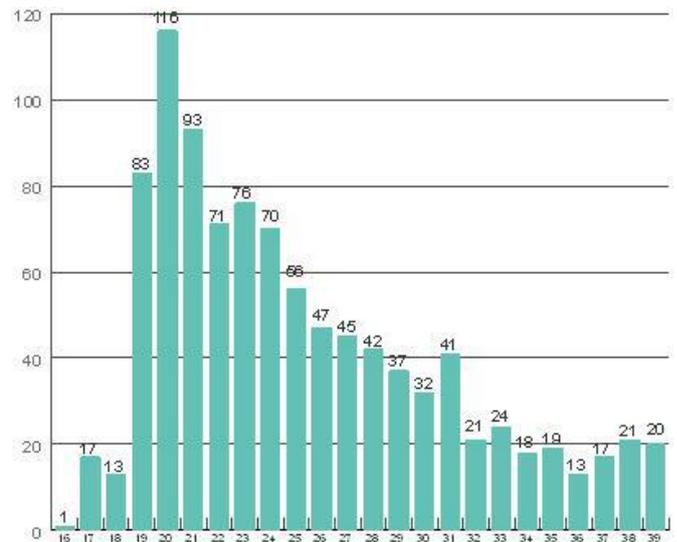
産業革命の時代や高度経済成長期ほどの技術革新が行われなくなった昨今、経済の発展を担う一つの役割として重要視されるようになった「デザイン」。今回で 6 回目を迎えたこのコンペティションもまた、その役割の一部を担うようなコンペティションへと成長を始めているように感じる。例年に比べて出品作品のレベルも向上していた。若年層の応募も増えており、それこそはまさにこれからの日本を「デザイン」という技術を通じて、経済を活性化させる人材の育成へもつながっていくのであろうと期待をせずにはいられなかった。今回受賞した方は無論、今回惜しくも受賞を逃した方もまた、「デザイン」で世の中を変えていく人材に他ならない。

<デザインコンペ> 応募者データ

● 応募総数昨年度比 (件)



● 年齢分布 (件)



■ 応募者数…993 名(組)

■ 傾向…今年の傾向としては、テーマが「まん中」ということもあり、日の丸やおにぎりをモチーフにした提案、週のまん中「水曜日」が特徴的なカレンダー、料理等を等分することに着眼した作品が数多く見られました。